

修士論文（要旨）

2008年7月

通所施設利用高齢者に対する造形活動の効果

指導 新野直明 教授

国際学研究科

老年学専攻

20641623

長家絵美

## 目次

序章	1
第 1 章：研究の背景と目的	1
1-1：アクティビティの実施状況	1
1-2：先行研究に見るアクティビティの目的と効果評価	2
1-3：アクティビティ研究の意義	3
1-4：目的	4
第 2 章：方法	4
2-1：対象	4
2-2：研究方法	4
2-2-1：調査の概要	4
2-2-2：アクティビティプログラムの内容	4
1) デイサービスの 1 日の流れ	4
2) 造形あり群各セッション（1 時間のプログラム）の流れ	5
3) プログラムの内容	5
2-2-3：評価方法	6
2-2-4：分析方法	7
2-2-5：倫理的配慮	7
第 3 章：結果	7
第 4 章：考察	8
第 5 章：まとめ	11

参考文献

資料

## 【研究の背景と目的】

近年日本では、多くの高齢者施設において多種多様なアクティビティが行われている。中でも、絵画や手工芸・木工・工作といった創作的な要素を含む活動（以下、造形活動とする）は、アクティビティ実施施設の約7割が取り入れていると言われている<sup>1)</sup>。しかし、楽しみのための造形活動の効果については、その目的の曖昧さと、効果評価の手法が未確立であること、また介入方法の統制が困難なために研究事例があまり見られない。

本研究では、高齢者に対して行われるアクティビティの中で、特に造形活動の効果を検証することを目的とした。具体的には、集団で造形活動を楽しむことをプログラムの基本的目標とし、造形活動を主としたプログラム実施前後での、参加高齢者の情動および対人交流の変化を検討した。

## 【方法】

東京都 A 市 B デイサービスセンター利用高齢者のうち、土曜日に利用している人 7 名を介入群（以下、造形あり群と示す）、金曜日に利用している人 5 名を対照群（以下、造形なし群と示す）とし、2008 年 3 月～5 月の 3 ヶ月間、介入調査を行った。

調査参加者のうち、造形あり群には、週 1 回、計 7 回通常のデイサービスの中で造形活動を含むアクティビティに 1 時間参加してもらった。造形なし群には、週 1 回、計 8 回通常のデイサービスのアクティビティに参加してもらった。デイサービス参加前後での、両群の情動と対人交流の変化を評価した。

## 【結果と考察】

AOK 孤独感尺度<sup>20)</sup>を使用して測定した孤独感、およびコンボイモデル<sup>21)</sup> <sup>22)</sup> <sup>23)</sup>を使用して測定した他者の位置づけについて、介入期間の前後で有意な変化は見られず、3 ヶ月間の造形活動が協調性や馴染みを深めたり、他者の位置づけに影響を与えることは確認できなかった。フェイススケール<sup>25)</sup> <sup>26)</sup>による気分の評価では、造形あり群で 7 回中 4 回、造形なし群で 8 回中 1 回、平均点にポジティブな変化が見られ、造形活動の導入により、参加高齢者の気分が改善する傾向が示された。結果から、造形活動は馴染むまでに半月～1 ヶ月程を要すると推測でき、完成品が出来上がった回には良い変化を生じるとも考えられることから、今後より多くの回数、定期的に造形プログラムを行うことで、より大きな変化が生じる可能性があると考えられた。また、造形活動の時間だけでなく、完成品等を掲示することによって、高齢者同士のコミュニケーションが生じる場面も観察された。

高齢者を対象とする多くの施設では、アクティビティ実施に際して十分な評価を行っていないのが現状であるが<sup>1)</sup>、様々な指標によって評価を試み、評価結果をもとにプログラム内容と方法の再検討を繰り返していくことが、より良いアクティビティを提供することにつながり、高齢者の QOL を高めるために有効であると考えられる。

今後もプログラムの内容や評価について検討を重ね、より質の高いアクティビティが提供できるよう、造形プログラムの企画・実践を継続したいと考える。

## 参考文献

- 1) 照井孫久, 今井幸充, 渡邊光子, 野村豊子: 高齢者施設におけるアクティビティの実態. 老年精神医学雑誌, 17 (11): 1199-1207 (2006)
- 2) 藪田碩哉, 千葉和夫: 福祉レクリエーションの考え方. (藪田碩哉, 千葉和夫, 小池和幸, 浮田千恵子編) 福祉レクリエーション総論, 3-21, 中央法規出版, 東京 (2000)
- 3) 草壁孝治, 斎藤正彦, 黒川由紀子, 神田真奈美ほか: 高齢者のレクリエーションの考え方. (草壁孝治, 斎藤正彦編著) 高齢者のレクリエーションマニュアル, 25-31, ワールドプランニング, 東京 (2002)
- 4) M. Carol Bowlby, 竹内孝仁: グループ活動. (鈴木英二監訳) 痴呆性老人のユースフルアクティビティ, 77-116, 三輪書店, 東京 (1999)
- 5) 木谷宣弘: 戦後の社会福祉分野におけるレクリエーションの歩み. (藪田碩哉, 千葉和夫, 小池和幸, 浮田千恵子編) 福祉レクリエーション総論, 21-34, 中央法規出版, 東京 (2000)
- 6) 垣内芳子: アクティビティ・サービス概論 (アクティビティ・サービス研究協議会編), 2-16, 中央法規出版, 東京 (2000)
- 7) 矢富直美: ビジュアル版介護予防マニュアル 3 楽しく続ける認知症予防のアクティビティ, ひかりのくに, 東京 (2006)
- 8) 長田久雄: 非薬物療法ガイドライン. 老年精神医学雑誌, 16 (増刊号-I): 92-109 (2005)
- 9) 北本福美: 高齢者を対象とする個人音楽療法の実際. 老年精神医学雑誌, 15 (5): 489-496 (2004)
- 10) 渡辺恭子, 池田学: 痴呆に対する音楽療法. 老年精神医学雑誌, 13 (9): 1031-1035 (2002)
- 11) 金子健二: 臨床美術: 認知症治療としてのアートセラピー改訂新版, 日本地域社会研究所, 東京 (2007)
- 12) 宇野正威: 芸術療法-美術療法と音楽療法-. 老年精神医学雑誌, 17 (7): 749-756 (2006)
- 13) 木村伸, 大城泰造, 金子健二, 西田清子ほか: DIMENSION を用いた造形療法の効果判定について-第2報-, 老年精神医学雑誌, 14 (5): 664 (2003)
- 14) 原千恵子: 痴呆性高齢者への包括的心理療法-芸術療法を中心として. 臨床描画研究, 18: 142-157 (2003)
- 15) 上島健, 安藤啓司: 介護老人保健施設入所者における継続的な「ぬり絵」活動と作品の変化. 作業療法, 23 (6): 530-538 (2004)
- 16) 貞木隆志, 小海宏之, 朝比奈恭子, 岡村香織: 色塗りに反映される痴呆性老人の臨床像. 心理臨床学研究, 21 (2): 191-195 (2003)
- 17) 石崎淳一: コラージュ法に見る痴呆高齢者の内的世界 中等度アルツハイマー病患者の作品から. 心理臨床学研究, 19 (3): 278-289 (2001)
- 18) 斎藤正彦: 認知症における非薬物療法研究の課題と展望. 老年精神医学雑誌, 17 (7): 711-717 (2006)
- 19) 松岡恵子: 高齢者ケアにおける芸術療法. 保健の科学, 47 (3): 182-186 (2005)
- 20) 安藤孝敏, 長田久雄, 児玉好信: 孤独感尺度の作成と中高年における孤独感の関連要因. 横浜国立大学教育人間科学部紀要. III, 社会科学, 3: 19-27 (2000)
- 21) Kahn RL, Antonucci TC: Convoys over the life course; Attachment, roles, and social support. *Life Span Development and Behavior*, 13:253-286 (1980)
- 22) Kahn RL, Antonucci TC: 生涯にわたる「コンボイ」愛着・役割・社会的支え (遠藤利彦, 河合千恵子共訳) 生涯発達の心理学 第2巻 気質・自己・パーソナリティ, 33-70, 新曜社, 東京 (1993)
- 23) 高橋恵子: 生涯にわたる人間関係の測定-ARSとPARTについて-. 聖心女子大学論業, 98: 103-131 (2002)
- 24) 古谷野亘, 安藤孝敏: 高齢期の人間関係. (古谷野亘, 安藤孝敏編著) 新社会老年学 シニア・ライフのゆくえ, 109-138, ワールドプランニング, 東京 (2003)
- 25) Christopher DL, Richard M: The face scale; A brief, Nonverbal method for assessing patient mood. *Arthritis and Rheumatism*, 29 (7):906-909 (1986)
- 26) 高橋龍太郎: 精神機能評価法 意欲・モラール・QOLの評価法. (小沢利男, 江藤文夫, 高橋龍太郎編) 高齢者の生活機能評価ガイド, 51-58, 医歯薬出版, 東京 (1999)
- 27) 葭原明弘, 清田義和, 片岡照二郎, 花田信弘ほか: 地域在住高齢者の食欲とQOLとの関連. 口腔衛生会誌, 54: 241-248 (2004)
- 28) 榎木良友, 梅田久美子, 伊藤千明, 安藤洋子ほか: 乳癌中術後症例の術側上肢に対するアロママッサージの効果-心的緊張緩和効果と唾液アミラーゼ活性の変動-. 岐阜医療科学大学紀要, 1: 21-25 (2007)
- 29) 鈴木みずえ, 金森雅夫, 田中操, 大城一: ペット型ロボットを用いた個別アクティビティにおける高齢者の精神的変化. 老年精神医学雑誌, 15: 68-75 (2004)